

## 第68回青少年読書感想文コンクール

### 中学校の部 特選

「僕が海を見た日」 大教大付属天王寺中3年・林誠一郎さん

僕は、今まさに漂流している。どこに向かって歩いていけばいいのか分からなくなっている。出会うべくして出会ったこの本が、僕に多くの問いを投げかけてきた。

ナヴェイア、ヴィク、マーラ、クエンティンは、それぞれに病気や事情を抱えながら、里子として養母ミセス・Kの家で暮らしている。ナヴェイアは、育児放棄とも思える環境下で、里子の世話もしながら、未来のことも考えている。中学二年生とは思えないナヴェイアのこの流されない芯の強さはどこからきているのだろうか。彼女は、以前の里親家庭でも、虐待やネグレクトを経験している。それは想像を絶する世界であり、見過ごされてしまっている現実でもあった。そんな過酷な状況を受け入れた上で、自分の人生設計をも立てていると思っていた。しかし、それは違っていた。逃げる先もなく、理不尽さを受け入れ我慢するしかない現実の元に成り立っていたのだ。本当の意味で、自由に人生を選択できている訳ではなかったことを、海を見に行くと決めた日のナヴェイアの意志から感じ取ることができた。

病気や事情で家族と生活できない人たち一僕の中の遠い記憶が蘇ってきた。僕の母は、僕が三歳の時に、難病を発症し入院した。僕は母方の祖父母の家で暮らすことになった。いつの頃からか、病院から母がかけてくれる電話にも出なくなった。電話で話しても会えないからだ。ある日、祖母がちょっと畑仕事に出ている間に独りぼっちになっていることに気づいて、泣き叫んだらしい。田舎の大きな家で、誰もいないと感じた不安は、今も僕の人格形成に影響を与えたかも知れないと思う時がある。血のつながりある祖父母との生活でさえ、孤独を感じずにはいられなかったのだから、里子として生きる彼女らがどんな思いで生きてきたかは想像に難くない。

今、向かう先を見失っている僕にとって、ナヴェイアの挑戦とも思える言動は、現実的な未来を見ることすら怠惰になっていた僕にそれでいいのかと立ち止まるきっかけをくれた。僕がナヴェイアなら、未来を夢見することを諦めてしまう気がする。母からの電話に出なかった時のように。諦めるというよりも、期待することをやめてしまうだろう。自分一人の力ではどうすることもできない環境要因が大きいならなおさらだ。今の環境を維持することでいっばいいいばいになるだろう。

ナヴェイアと僕の芯の違いは何だろうか。「世間に投げ出された漂流者」というヴィクにナヴェイアは「でも島にたどりついた、でしょ？」と問う。

ナヴェイアは、ずっと理不尽な環境から逃げずに生きてきた。流されないように、ずっと踏ん張って生きていた。自分の人生を諦めない、そんな錨を心の中に持っていたのだと思う。海を初めて見た日。彼女らは、その個々にあった錨がさらに深い所で、つながっていたことに気づいたように思えた。ナヴェイアのいう「たどり着いた島」とは、心の拠(よ)り所となる。“家族、という錨であり、島だったのでないだろうか。“家族、という錨を持たた

ことで、彼女らは心から笑うようになった。自分たちの生きる世界も悪くないと思えたのだ。

僕が感じたナヴェイアの芯の強さが、錨を持つことで生きていくことだとしたら、このまま僕は、流され続けていいのだろうか。ずっと焦っていたし、どんどん不安を募らせてもいた。でも、この四人の冒険の旅を通じて、僕自身も気づいたことがある。

僕は、守られた中で漂流しているに過ぎなかったということだ。僕が悩み焦っていることを知りながら、漂流することでしか見えない景色もあると見守ってくれている家族が居る。自由に漂流できるのも、どこか帰る場所があると分かっているからだろう。ナヴェイアもまた、冒険の旅を通して、実は自分も支えられていたことに気づいたのだと思う。支えられていることに気づいた時、人はより強くなり、人生を前向きにとらえられるのではないだろうか。

冒険の旅を通して、まぎれもなくナヴェイアらは“家族、という錨を持てたのだろう。共に過ごし思いを共有できる“家族、がいるからこそ、揺るぎない芯の強さを持てたのだ。今、僕は大きな人生の海を漂流し始めたに過ぎない。戻る場所があるからこそ、自由に挑戦できる環境にあったことに気づけたこの夏。ただ流されているだけではなかったことや風向きが変わってきたことを感じている。何より、その舵を取るのも自分次第だ。まだ自分の向かう先が見えている訳ではない。それでも、不思議と自分なりの島に必ずたどり着けるだろうと思えている。

「きっと世界は、そんなにひどいところじゃない」。生まれて初めて海を見た日、ナヴェイアたちの何かが動き始めたように、僕の船出にも大きな意味があると思える夏になった。  
（「海を見た日」M・G・ヘネシー 訳・杉田七重／鈴木出版）